

# 歴史研究部 夏の体験学習

歴史研究部では、8月1日、2日の2日間にかけて、関市教育委員会の文化財保護センターにお邪魔し、国史跡「弥勒寺官衙遺跡群」から出土した瓦（塔に葺かれていたと推測される）の整理作業を体験してきました！

## 8月1日(火)

<体験1：洗い>



瓦はあまりゴシゴシ洗うと、溶けてしまう（どうやら当時はあまり高温で焼き上げていないよう）ので、痕跡を消さないよう洗うのがむずかしかったです。ブラシはこするのではなく、軽くたたいて土を落とすのです。



洗うと、網目がくっきり浮き出てきました。

弥勒寺の瓦はどのように製作されたのか、諸説あるようですが、次のように作ったのではないかと、解説いただきました。



左上の写真のように、長細い板をひもでつなぎ、これを丸く桶のように形作り、粘土を表面に張り付けるのですが、そうすると、木板の表面に張った布（はがしやすくするためだそうです）の痕跡（網目）が瓦の凹面に残らなければならないのですが、弥勒寺から出土する瓦には、網目が凸面にあるものがとても多いので、右上の写真のように作った可能性があるとのことでした。

## <体験2：ナンバリング>

発掘された遺物は膨大な点数となるため、何がどこから掘り出されたものなのか、きちんと整理しておく必要があるため、1点1点に番号を振り分けます。それを直接遺物に記入します。



書くときには、なるべく目立たないところに小さな文字で書く必要があります。むずかしい！

1日目はここまで！

# 8月1日(火)

午前中は、田中センター所長のご厚意で、国史跡「弥勒寺官衙遺跡群」(みろくじかんがいせきぐん)について、現地で解説いただきました。

大海人皇子の舎人であった身毛君広(むげつきみひろ)は、672年の「壬申の乱」で功績を立て、以後律令体制下の郡領としての地位を固め、この地で氏寺の建立とともに役所(弥勒寺東遺跡)を整備し、西の谷(弥勒寺西遺跡)で祭祀を行ったそうです。

「弥勒寺官衙遺跡群」は、律令体制下においてムゲツ氏が武儀郡衙をどのように運営していたのかがわかるとともに、全国の地方郡衙の営みを知ることができる、極めて稀な例として貴重であるとして、国の史跡となったのだと、お教えいただきました。



正倉院(米の貯蔵庫)跡



ここから出土した炭化した米



←郡庁院(役所です)跡

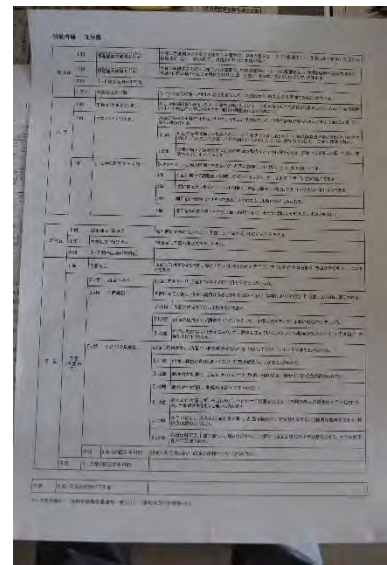
## <体験3：遺跡整備体験>

遺跡の整備には、欠かすことのできない作業・・・草取りです。これも体験しました！



## <体験4：選別及び組み合わせの体験>

1日目にナンバリングした瓦を、色や形など一定の基準を設けて、選別しました。



「基準に合わせて分けましょう！」

色や形など、似通っているものを合わせてみて、結合しそうなら、ボンドで貼り付けます。



今回はここまで！

**最後に・・・**

**このたびは、田中所長や森島さんほか、関市教育委員会文化課文化財保護センターの皆様には大変お世話になりました。とくに石木さんと清山さんには、最初から最後まで懇切丁寧なご指導をいただき、心より感謝申し上げます。ありがとうございました！**